

# 葦 森 の 風

## 足守地区の岡山型一貫教育の推進に係る研究発表会が開催されました。

6月4日(火)は足守地区の幼稚園・2小学校・中学校4校園の研究発表会が開催されました。参加者は、岡山市内の学校関係者と教育委員会の先生方で、総勢200名ほどの方でした。

4校園の先生方が、2年間研究を積み重ねてきた成果の発表会でした。

各校園で、保育や授業の公開研究があり、その後、全体会では、中学校体育館に全員が集まり、岡山市教育委員会山脇教育長の挨拶、学区の研究発表、岡山大学の高旗浩志准教授の講演がありました。



1 A・B地域の学習



1 B英語 ペアで会話



3 B国語 教育長も視察



3 A英語 現在完了形



山脇教育長の挨拶



200名以上の教職員



高旗浩志先生のご講演



足守地区の取組の発表

◎研究のねらいは、足守地区の教育を幼稚園から中学校までの11年間で連携し、必要な段差は残しつつ、共通の視点を創って、学習効果を高め確かな学力の向上を目指すことと、足守の地域に対して、これまで以上に感謝の気持ちを持ち、いつまでも大切に思う気持ちを育てていくことです。

◎炎天下の中、新旧PTA役員の方数名が、駐車場整理や受付をお手伝いくださいました。来校者もその対応に喜ばれておられました。本当に助かりましたありがとうございます。

## 地域協働学校運営協議会

\*今後、委員さんのコメントを少しずつ掲載させていただきます。

地域協働学校とは岡山市版コミュニティスクールと呼ばれるものです。「岡山型一貫教育」と「地域協働学校」が岡山市の教育の根幹となります。委員さんには守秘義務が法的に課されており、重大な責任を負っていただいています。『保護者や地域住民の学校運営への参画』がひとつの目的です。

## 「ありがたみを感じなくなってきた子どもたち」

足守中学校地域協働学校運営協議会会長 後藤晴美氏

本年も足守中学校の地域協働学校運営協議会の委員として、微力ながら足中の教育に少しでもお役に立てればと思っております。

さて、最近感じているとともに気になっていることです。それは、子どもたちが周りの人達や環境に対してありがたみを感じなくなり、感謝の気持ちが薄れてきているのではないかとことです。子ども中心の家庭生活の中では、すべて自分にかかわる事象があたり前だと思い、ありがたみを感じなくなっているのではないのでしょうか。

物事の価値は、普段あるときは、そのありがたみがわからなくなりがちです。それが失われたり、不足したりしたとき、初めてその尊さに気付くものです。

健康であることはあたり前だと普段は思っています。ところが怪我をしたり、病気になったりして、長期の入院生活を送るようになったとき、初めて「健康はありがたい、健康が一番だ」と思うようになるものです。空気(酸素)も同じです。普段は存分にあるので何とも思いませんが、高い山に登ったりして、酸素が不足で、苦しい思いをすると、そのありがたさが認識できるものです。

同様に教育についても、学校に行きたいという気持ちがあるのに行けないとなると、勉強したいという気持ちが燃えるものです。歴史上に名を残した偉人たちは、皆このような気持ちだったのでしょうか。

勉強は自分の自立のためにするのであって、親や教師のためにするものではないはず。ところが周りがお金を出し「仕事は手伝わなくていいから、とにかく勉強してくれ」と懇願すると、かえって向上心がなくなって、まるで子どもが親のために勉強しているような錯覚さえおこしてしまうのです。

人間とは不思議なもので「勉強するな」と言われたり勉強がしにくい悪環境にあると、かえって勉強心が燃えるものですが、「勉強しなさい」とうるさく言われたり、何の不自由もない環境だとかえって勉強心はしぼんでしまうものです。

今のように、一種の過保護状態にあると、子どもは親のおかげということを感じなくなり、感謝の気持ちが薄れてきます。自分が生きているということは、自分の周りがかかわってくれる人達のおかげです。このあたり前のことを、物質的に豊かになった社会は、子どもたちに忘れさせているのではないのでしょうか。  
(我が自身の反省も含めて書きました。)

